

(1) 上焦の急性症状

上焦の急性症状は、上焦に元々歪みがあり、その歪みが上衝する邪気に反応し、上焦で激しい症状が出ている。表位にも熱症状が出るが、上焦の症状の方が辛く感じる。

そのため、上焦の横輪切り部分、特に背中側にツボが出るし、関連する手陰経にもツボが出る。

上焦で症状を出している原因の多くは邪気なので、上衝する邪気を体の外に出すこと、上焦で蠢く邪気の出やすい道筋を作ることが基本。

上衝の原因は、中焦の水毒、下焦の瘀血、虚が多いので、慢性期にはそれらの処置も必要だが、応急処置では、そこに施術すると症状が悪化することもあるので、しないのが基本。

(2) 基本処置

表位と同じように、上焦から頭にかけて動いている邪気を体の外に引き出し、上衝を鎮めるため、表位の散鍼し、末端へ引き鍼。

邪気が主に暴れているのは上焦なので、そこから邪気が体の外に出て行きやすい道筋を作ることが必要（ルート工作）。上焦に一番関係する手陰経の末端へ引き、上焦の横輪切りの背中側に引く。

手早い刺鍼が大切なのは、表位と同じ。

(3) 実技と手順

患者さんがその時の姿勢が基本。背を丸めた座位が多いが、横向き寝もある。咳など体の動きが激しいときは、接触鍼か提鍼で施術した方が無難。

〈1〉急性期の応急処置

手順の基本は、次の通り。

1. 上衝を治める：手甲に引き鍼
2. 手足に引く：手陰経の手首近くに引き鍼
3. 陽に引く：上焦背中側に引き鍼
4. 上衝を治める i.表位の散鍼

ii.再度、手甲に引き鍼

途中で状況により必要な処置を付け加える。

1. 上衝を治める：手甲に引き鍼

まず上衝を治めるために、手甲のツボに引き鍼。頭の熱い所に関係する辺りを探す。額なら合谷、横から後ろなら中渚が多い。瞬き、顔の赤み、声のトーンなどを参考に、手早く速刺徐抜で刺鍼し、邪気の波が来終わったときに抜きあげる。

手甲への刺鍼で上焦が治まらないときには、軽く頭の熱い所に散鍼してから、井穴など手指のツボや、足三里、陽陵泉などに引く。

2. 手足に引く：手陰経の手首近くに引き鍼

咳など呼吸器系なら列缺、吐き気や胸焼けなら内関、不整脈などなら左陰郄の辺りにツボを探して引く。手早さを加えた除刺徐抜で刺鍼し、邪気の波が来終わったときに抜く。

3. 陽に引く：上焦背中側に引き鍼

背を丸めて耐えていることが多いので、その丸みを見て最も出っ張った辺りにツボを探す。呼吸器系なら胸椎3-4、吐き気・胸焼けなら胸椎7-8の左側、不整脈などなら左肩胛骨下角の辺りにツボを探して刺鍼。ただし、喘息は背を反らしていることが多く、曲げている所にツボを探す。

手早く、次の波が来ないうちに蠢いている邪気を全て抜き出し尽くすように刺鍼。

4. 上衝をおさめる

i. 表位の散鍼

熱い所を散鍼。まずは肩胛骨・肩・項（うなじ）、次に鎖骨～前頸部、そして頭・額。置く方はユックリ、離す方を速く。

ii. 手の甲に引き鍼

終わりに、再度、手甲の引き鍼で後始末。

〈2〉子供の喘息の軽い小発作

利き手側の肩甲間部華陀経のツボを押しながら、利き手親指を反らしパッと離すと、その途端に息を吐き、治まることもある。

〈3〉数時間以内に復活したら

応急処置後数時間以内に痛みが同じ位に復活したら、器質性病変を疑い救急医療へ。

要点

- ① 上焦に歪みがあると、上焦に急性症状が出る
- ② 手甲、手陰経の手首の近くの順に引く
- ③ 上焦の背中側にツボが出るので、そこに引く